

# 平成30年度事業計画書

平成30年4月 1日から

平成31年3月31日まで

一般財団法人 日本モーターボート競走会

# 平成30年度事業計画

平成30年4月 1日から

平成31年3月31日まで

## I. 基本方針

平成29年度の上半期は、ボートレース下関で6場目となるナイターレースの開催をはじめ、場間場外発売日数の拡大、電話投票会員向けサービスの充実等のボートレース活性化策が実施されたことから、総売上は対前年比11.3%増の5,914億円となった。

下半期には、年末にグランプリ及びクイーンズクライマックスが開催されること等から、最終的な年度売上は、当初の売上見込を上回り1兆2,000億円を超えることが予測される。

しかしながら、国内景気の先行きについては、雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復に向かうことが期待されるものの、不透明な海外情勢により、国内の景気が影響を受ける懸念もあることから、近年増加傾向にあるボートレースの売上も楽観視はできない。

したがって、平成30年度の事業についても、競走実施機関としての指定に基づく「審判及び検査等の競技関係事務」、「選手、ボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録」、「選手の出場のあっせん」、「選手、審判員及び検査員の養成及び訓練」等の競走実施業務を適切かつ確実に実施する。

この競走実施業務においては、人身事故防止の徹底はもとより、特に、スタート事故の減少については事故率・返還率に目標値を定めて選手指導を行うとともに、審判機器の充実や選手宿舍の新築・改修により出場選手の快適性を確保し、競走の公正かつ円滑な実施に資することとする。

また、SG審判員制度を継続して実施するとともに、魅力ある競技の在り方等について調査研究を行う。さらには、スター選手の育成へ向けて、新人選手の技術・精神面の指導強化、自主訓練の地区内交流、ボートレーサー養成所の訓練内容の充実を図るほか、入所者数を増員した中から優れた人材を確保し、育成と資質の向上を推進する。あわせて、注目度の高い競走や話題性のある選手の広報展開はもとより、ボートレースの啓蒙普及に役立つパブリシティ活動を積極的に実施し、ボートレースの活性化に努める。

## Ⅱ. 平成30年度の競走実施業務に関する事業

### 1. 競技関係事務

#### (1) 選手、ボート及びモーターの検査に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、選手、ボート及びモーターの検査を行う。選手に対する検査は、身体上の支障の有無及び体重等の測定を行い、ボート及びモーターに対する検査は、「ボート及びモーター登録規格」に規定する要件及び構造上の欠陥の有無等の確認を有資格者である検査員が行う。

#### (2) 競技の審判に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、競走に出場したモーターボートの出走、失格及び着順を判定し、並びに勝舟の決定を有資格者である審判員が行う。

#### (3) 選手の管理に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、競走に出場する日の前日に行う前日検査から管理解除までの間、外部との遮断を行い、これにより競走の公正確保に努める。また、競技部に医務員を配置するなど選手の健康管理を行う。

#### (4) その他競技運営事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、モーターボートの確認、出場準備、紹介、選手の救助、番組の編成、燃料の管理、選手宿舎の運営等に関する事務を行う。

### 2. 選手、競走に使用するボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録

#### (1) 選手、審判員及び検査員の試験

「ボート、モーター、選手、審判員及び検査員登録規則」に基づき、選手、審判員及び検査員の資格検定試験を実施する。

## (2) 選手、審判員及び検査員の登録

モーターボート競走法第33条第2号に基づき、選手、審判員及び検査員の新規登録、再登録及び登録更新を行う。

## (3) 競走用ボート・モーターの検査及び登録

モーターボート競走法第33条第2号に基づき、ボート・モーターの検査を行い、「ボート及びモーター登録規格」に合致していると認めるときは登録を行う。

## (4) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会

競走実施業務規程に定められている「ボート、モーター、選手、審判員及び検査員登録業務規程」に基づき、選手、審判員及び検査員の登録に関する審議を行うために開催する。

# 3. 選手の出場のあっせん

## (1) 選手の出場のあっせん

モーターボート競走法第33条第3号に基づき、選手の出場のあっせんを行い、競走の公正、安全かつ円滑な実施を図る。

## (2) 選手出場あっせん委員会

競走実施業務規程に定められている「選手出場あっせん規程」に基づき、選手級別の決定及び選手出場あっせん保留等、選手の出場のあっせんに関する重要事項を審議するため開催する。

## (3) ボートレースオールスター（笹川賞競走）出場選手選考委員会

競走実施業務規程関係実施細則に定められている「SG競走開催要綱」に基づき、ボートレースオールスター（笹川賞競走）の出場選手の選考を行うため開催する。

## (4) レディースオールスター（レディースオールスター競走）出場選手選考委員会

競走実施業務規程関係実施細則に定められている「GⅡ競走開催要綱」に基づき、レディースオールスター（レディースオールスター競走）の出場選手の選考を行うため開催する。

#### (5) 選手出場あっせんに関する会議等

あっせん業務の円滑な実施を図るため、あっせん事務連絡会議、地区別あっせん研究会等を開催し、あっせんに関する方針及びグレード別競走の周知を図るとともにあっせんに関する諸問題等について検討を行う。

#### (6) あっせん及び番組編成支援システムの維持管理及び改善

あっせん業務の効率化を図るため、選手による参加手続きシステム、あっせん及び番組編成支援システムの維持管理・改善を行う。

### 4. 選手、審判員及び検査員の養成及び訓練

#### (1) 選手、審判員及び検査員の養成

##### (ア) 選手の養成

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、選手の養成を行い、選手として必要なモーターボート競走に関する知識及び技術の習得を図る。また、スター選手を育成するため、入所者数を増員した中から成績優秀かつ人格円満な養成員を確保するとともに、現地訓練、能力別訓練及び実技指導員による性能向上整備等を行い教育内容の充実を図る。

##### (イ) 審判員及び検査員の養成

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、審判員及び検査員の養成を行い、審判員及び検査員として必要なモーターボート競走に関する知識及び技術の習得を図る。また、法定業務、競走運營業務の理解促進を図るため、実務者実技指導員による審判・検査業務訓練及び課外研修等を実施する。

#### (2) 選手、審判員及び検査員の訓練

##### (ア) 選手定期訓練

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、業務指導及び選手の資質向上を図るための講義等を実施する。

##### (イ) 新人選手定期・臨時訓練

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、登録2年未満の選手及び登録5年未満の低勝率の選手を対象に操縦・整備技量の向上を図るため、実技指導選手を招聘した模擬レースや整備士を招聘した性能向上整備等の実技訓練を実施する。

(ウ) 選手会支部別自主訓練

選手の資質向上を図るため、地区内の選手会支部が交流を図りながらボートレース場において模擬レース等の実技訓練を行い、新人選手を中心とした業務指導を行う。

(エ) 審判員及び検査員定期訓練

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、業務指導及び資質向上を図るための講義等を中心とした訓練を実施する。

(3) ボートレーサー養成所の運営

(ア) 施設の維持管理

各種設備、機材及び機器類の点検管理に万全を期し、施設の機能を維持する。

(イ) 施設の利用

選手、審判員及び検査員の養成訓練並びに定期訓練ほか、ボートレース関係者の研修等の施設として利用する。

## 5. 選手、審判員及び検査員の褒賞及び懲戒

(1) 選手、審判員及び検査員の褒賞懲戒審議会

競走実施業務規程に定められている「選手、審判員及び検査員褒賞懲戒規程」に基づき、選手、審判員及び検査員の褒賞及び懲戒に関する審議を行うため開催する。

(2) 公正の確保

(ア) 競走の不正防止対策の調査研究

(a) 全国公正指導委員会議

競走運営の健全化を図るため、競走の不正防止に関する調査研究及び選手の動向調査を行い、指導事項を検討する。

(b) 公正業務の現地調査

諸情報を収集し、競走の不正防止を図る。

(c) 公正指導員会議

円滑かつ効果的な調査活動を促進するため、調査活動に必要な知識を付与するとともに、情報交換等を行う。

(d) 公営競技公正連絡会議

公営競技5団体相互の緊密な連携を図るとともに、公正に関する諸情報の交換を通じて、公営競技の健全な発展を期す。

(イ) ふれあい研修会

選手会支部別に開催し、選手及び家族に対し各種指導を行う。

(ウ) 新人選手の指導強化

「新人選手指導要領」に基づき、選手会の新人選手指導担当者及び選手会支部の指導員と連携し、新人選手の指導強化を図る。

**6. ボート及びモーターの改良、競技に必要な設備の改善並びに競技の実施方法に関する調査及び研究**

(1) 競技運営の改善研究

(ア) 競技運営の改善、合理化

(a) 競技運営研究委員会

競技運営の円滑な実施を図るため、現行制度等の改善・研究を行う。

(b) 各種実務担当者会議

審判委員長・競技委員長会議、審判委員長会議等を開催し、競技運営・審判判定上の諸問題等について検討を行う。

(c) 競技運営に関する調査研究

魅力ある競技の在り方やレースの面白さ・醍醐味を効果的に伝達する方法等について調査研究を行う。

また、審判・検査機器の改善のほか、審判判定用器材の充実として、判定用カメラの導入更新、自動展示タイム計測システムの導入を行う。

さらに、お客さまの注目度の最も高いSG競走及びプレミアムGI競走等において、よりの確な判定を行うため、SG審判員が審判業務に関する調査研究を行う。

(イ) 水上施設の改善研究

消波装置、各種信号機器等水上施設の改善に関して調査研究を行う。

(ウ) 選手宿舎施設の新築・改修

管理体制の充実と競走に出場する選手に快適な環境を提供し、より一層の公正・安全な競技運営を実施することを目的に選手宿舎施設の状況調査等を実施し、新築・改修工事を行う。

(2) 事故防止対策

(ア) 各種事故の調査研究

競技運営上の事故の発生状況を調査し、事故原因の究明を行い、業務指導を行う。

(イ) スタート事故防止に関する選手指導

競走の魅力著しく阻害するスタート事故を減少させるため、スタート事故防止強化場を選定し水上施設の改善及び選手指導を行うとともに、事故率・返還率の目標値を設定して事故防止運動を展開し、特に事故防止強化競走において注意喚起を図る。あわせて、目標を達成した選手会支部等の表彰を行う。

(ウ) 人身事故等の防止に関する選手指導

人身事故等の防止に関する意識の高揚を図り、事故の未然防止のための指導を行う。あわせて、「人身事故未然防止選手の褒賞要領」に基づき、事故回避選手の表彰を行う。

(エ) 技術連絡会議

競走用ボート・モーター等に関する性能向上、防護具の性能改善並びに各種事故防止対策等について検討する。

(オ) レスキュー訓練

航走事故発生時に負傷選手の迅速な救助と安全円滑な競技を続行するため、ボートレース場等においてレスキュー訓練を実施する。

(3) 競走用ボート等の改善に関する調査研究

(ア) 競走用ボート・モーターの性能改善研究

現用ボート・モーターの改善研究、将来に向けたボート・モーターの研究開発等これら競走用ボート・モーターの性能改善を図るため、委員会等を開催し、調査研究を行う。



(イ) 防護具等の改善研究

ヘルメットの強度確認試験等による研究開発、救命胴衣の使用状況調査及び将来に向けた救命胴衣の調査研究、乗艇着等の安全性向上を図るための改善研究を行う。

(ウ) 整備士制度の運営

競走実施業務規程関係実施細則に定められている「モーターボート整備士規程」に基づき、整備士資格制度運営委員会を開催し、整備士資格試験を実施し資格を付与する。また、整備士の資質・技量向上及び早期育成を目的とした2級整備士講習会をはじめ各種講習会を開催し、整備士制度の充実を図る。

## 7. 競走の公正かつ円滑な実施を図るための企画・立案

(1) 諸体制の強化

(ア) モーターボート競走連絡協議会

モーターボート競走連絡協議会が行う業務に参画する。

(イ) ボートレース活性化委員会

ボートレース業界全体で推進する施策について、中央団体の代表者を招集し、活性化策の意思決定を行う。

(ウ) 公営競技各団体との連絡会議等

他公営競技との連絡及び情報の交換等を図るため、公営競技企画連絡会議及び公営競技会長・理事長懇談会を開催する。

(2) ボートレースの普及及びイメージアップを図るための広報

(ア) スター選手育成に関する事業

(a) スター選手育成実行部会

スター選手の育成を図るため、スター選手育成実行部会を開催し、育成の在り方及び選手が活躍できる環境整備等を行う。

(b) トップルーキー講習会

スター選手の育成を図るため、トップルーキーを対象に、マスメディアの対応や精神面の強化を図るための講話等を実施する。

(c) フレッシュルーキー実技訓練

スター選手の育成を図るため、フレッシュルーキーを対象に、操縦・整備技量の向上や精神面の強化等を図るため、実技を主体とした訓練を実施する。

(d) 地区別合同実技訓練

スター選手育成の一環として、各地区内におけるフレッシュルーキー及び若手選手の技量向上のため、操縦・整備等の実技訓練を実施する。

(e) スター候補選手のパブリシティ

スター候補選手を積極的に活用することにより、各地のマスコミ（地方紙、全国紙局、ラジオ等）に向けて、スター候補選手自身のPRを通じ、ボートレースの啓蒙、主要レースの話題化を図るとともに、選手募集活動のPRを行う。

(イ) 広報の充実

(a) 広報活動

パブリシティ、宣伝及び広告等によりボートレースの普及を図るとともに、スター選手育成のための話題づくり等の広報活動を推進することによりイメージアップを図る。また、IT関連等の媒体を効果的に活用し、特に若年層への普及を図る。あわせて、ボートレース業界に関するオピニオンリーダーの発掘・育成を行う。

(b) 資料作成

業界関係者及びマスコミ関係者の広報・宣伝活動を支援するための各種資料を作成する。

(c) 優秀選手の表彰

「優秀選手表彰規程」に基づき表彰し、お客さまと優秀選手が触れ合える優秀選手表彰式典を開催する。その他必要に応じて各ボートレース場にて優秀選手の表彰を行う。

(ウ) 選手の募集

(a) 募集担当者会議

選手募集活動のあり方を検討するとともに、円滑な募集活動の実施を図るため開催する。

(b) 選手募集活動促進のための広報

応募者数拡大のためインターネット・携帯電話の活用、雑誌等への広告展開を図るとともに、スポーツイベントへの協賛や募集説明会を定期的を開催する。

また、他のスポーツ競技に対しスカウト活動を行う。

(エ) 資料の収集、諸統計の作成及び刊行物の発行

ボートレースの現状把握及び普及を図る。

(3) 集客のための広報

(ア) S G 競走等の広報支援

(a) S G 競走の広報

来場促進と売上向上を図るため、マスメディアに対して広報活動の支援協力を行う。

(b) プレミアムG I 競走等の広報

クイーンズクライマックス（賞金女王決定戦競走）をはじめ、マスターズチャンピオン（名人戦競走）、ヤングダービー（ヤングダービー競走）、レディースチャンピオン（女子王座決定戦競走）、レディースオールスター（レディースオールスター競走）、イースタンヤング（イースタンヤング競走）、ウエスタンヤング（ウエスタンヤング競走）及びファン感謝3Daysボートレースバトルトーナメントの注目度を高め来場の促進を図るため、各開催ボートレース場及びマスメディアに対して広報活動の支援協力を行う。

(c) ボートレースオールスター（笹川賞競走）及びレディースオールスター（レディースオールスター競走）出場選手のファン投票方法の充実

インターネット及び携帯電話等を活用したファン投票方法の充実を図るため、関係者に対して支援協力を行う。

(イ) 全国広報・宣伝担当責任者会議

S G 競走、プレミアムG I 競走等における集客、広報・宣伝に関する企画内容等の周知を行うとともに、中央並びに各ボートレース場での広報活動全般の向上と協力連携体制を図る。

(4) ボートレースの発展のための調査研究

ボートレース事業の活性化、競走会業務の拡大及び発売の多様化等の発展を期するための将来施策に関する調査研究を行う。

(5) 関係者の資質向上に関する事業

能力開発、組織力の向上及び業務の効率化を図るため、人材育成や社内教育としての各種研修会を開催する。

(6) その他の事業

(ア) 永年功労者の表彰

「永年功労者表彰規程」及び「モーターボート整備士規程」に基づき表彰する。

(イ) 売上新記録達成ボートレース場の表彰

1レース、1日及び節間の売上新記録を達成したボートレース場を表彰する。

(ウ) その他本会の運営に必要な事業

## 8. 海事知識の普及

(1) アマチュアモーターボートレースの支援

海事知識の普及を図るため、アマチュアモーターボートレースの実施に対する支援協力を行う。

(2) ゴムボート大会等の実施

ボートレース事業への理解と海事知識の普及を図るため、ボートレース場及びボートレーサー養成所等において、近隣地域の住民を対象としたゴムボート大会及びペアボート試乗会等を実施する。

(3) 各地海事広報協会との共同事業の実施

ボートレース場が存在する各地海事広報協会と共同により、主に小中学生を対象にボートレース場等を活用した海洋教室等を実施し、海事知識の普及を図る。

### Ⅲ. 平成30年度の競走実施業務以外の業務

#### 1. その他本会の目的を達成するために必要な事業

##### (1) 広域発売の推進

ボートレースチケットショップ等において、舟券の発売等に関する事務、ギャンブル依存症対策、その他運営に関する広報宣伝等の事務を行う。

##### (2) その他の業務

笹川記念会館、駐車場等の管理業務を行う。